

# 盾の勇者の快楽墮ち

R-18

# 盾の勇者の 快樂の墮ち

金が欲しいなら他を当たるんだな

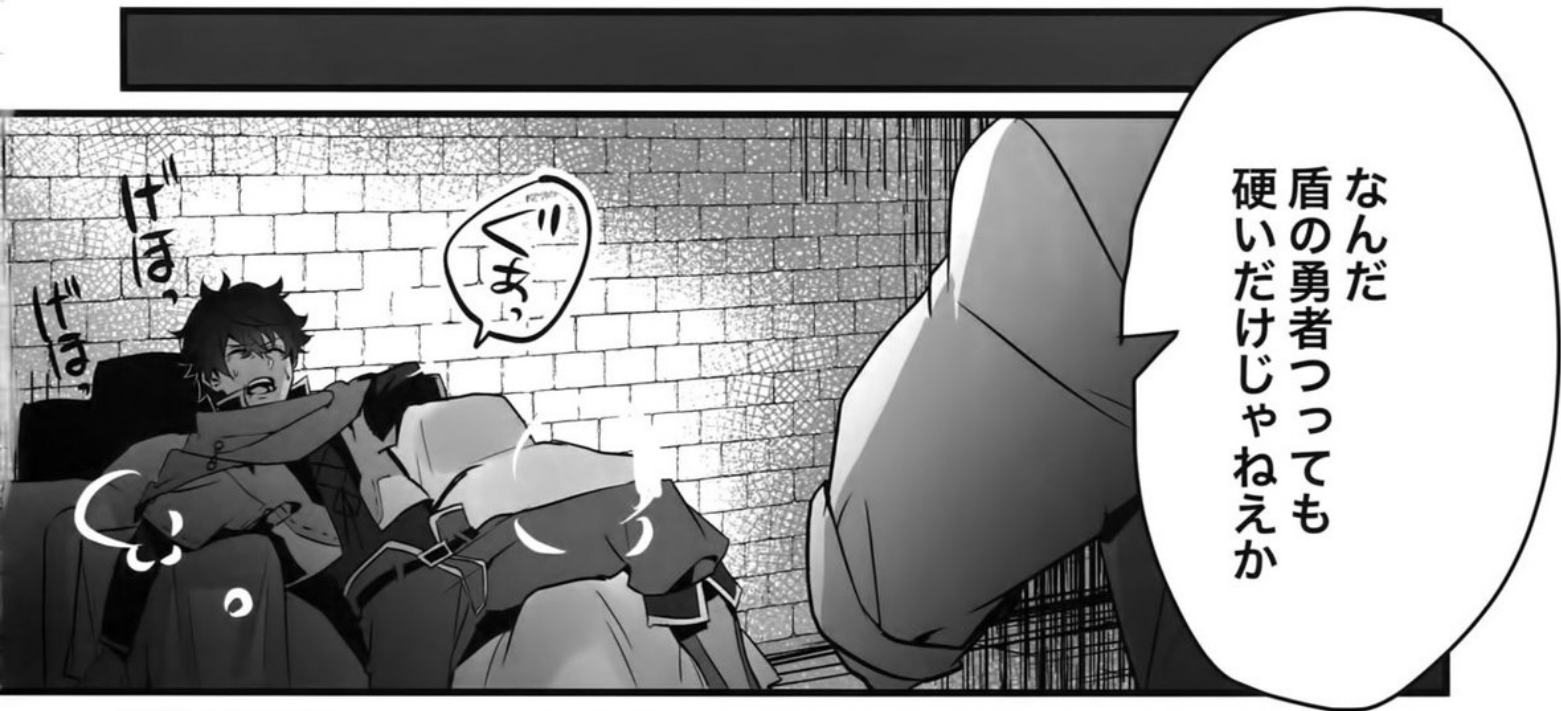
生憎と俺はお優しい聖人じゃないんでな

とつとと失せる

カ  
フ  
カ  
フ







なんだ  
盾の勇者つつても  
硬いだけじゃねえか



よせよ  
照れるぜ

流石アニキ!



!?

ほんとだw  
しかもカワイー顔してる

ん?  
よく見たらコイツ...

随分と細っこいし  
男でもいけんじゃねえか?







てかガリガリじゃん  
ちやんと飯食ってんのか？

お〜！肌スベスベ〜  
超気持ちい〜！

スリッ...

クワッ...

クワッ  
クワッ  
クワッ  
クワッ



よしっ！じゃあ  
今からたっぷり  
食わせてやるからな〜

兄貴に感謝しろよ！  
勇者サマ！

ピッ

ボロ〜

ボロ〜





っあく口ん中  
あったかくて気持ち〜…

ん？

今ひよっとして噛んだ？

まあ全然痛くないけどw

むしろいい感じだから  
そのまま頼むわw

兄貴はっやw  
マジ早漏w

あっ…イキそ…

いんせんっ

あく濃いの出すぞ〜ッッ



ルルル



おい

ん

あーんんんんん

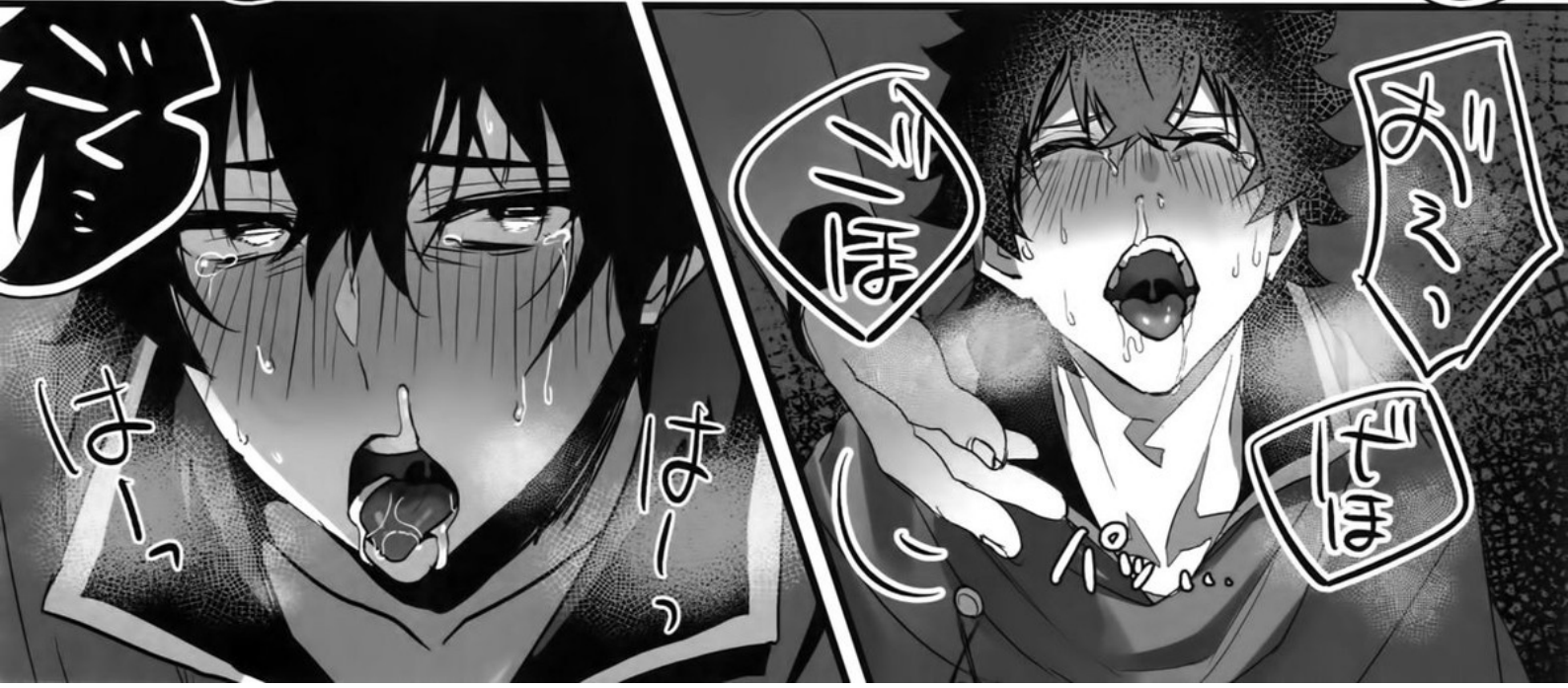
ダメだろザーマン  
こぼしちゃ!

ガッ





ママに教わらなかったのか!



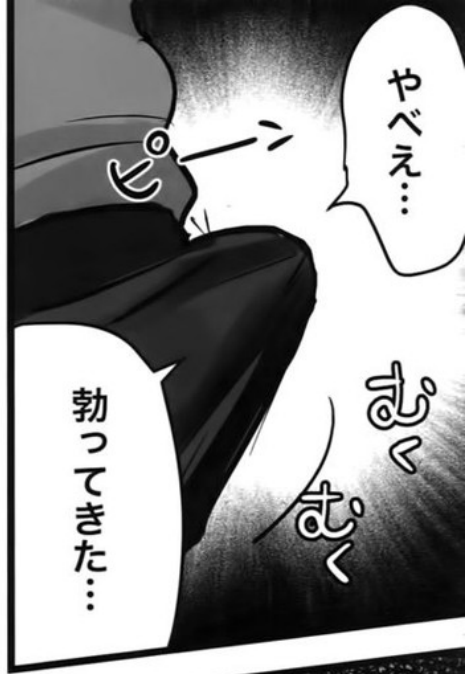


オラツケツ出せっ！

ばたっ...



クソッ



勃ってきた...

やべえ...

むく  
むく



まあ待てって

いくら勇者サマでも  
いきなりは可哀想だろ？



はは...

それどんなヤツでも  
セックス狂いになるっていう...



コイツを使え





そんなもんどこで  
手に入れたんすか？

ああ、これは知り合いの  
貴族から横流ししてもらった

あぐっす



本当は飲む奴だが…  
まあ、そのままでも大丈夫だろ

あぐっ

勇者だし

おほおほ



えっ…

飲みしんが  
あっ…

えっ…









へへッ  
ケツイキとは随分と  
淫乱じゃねえか勇者サマは…

この勇者…エロすぎる…

堪んねえ







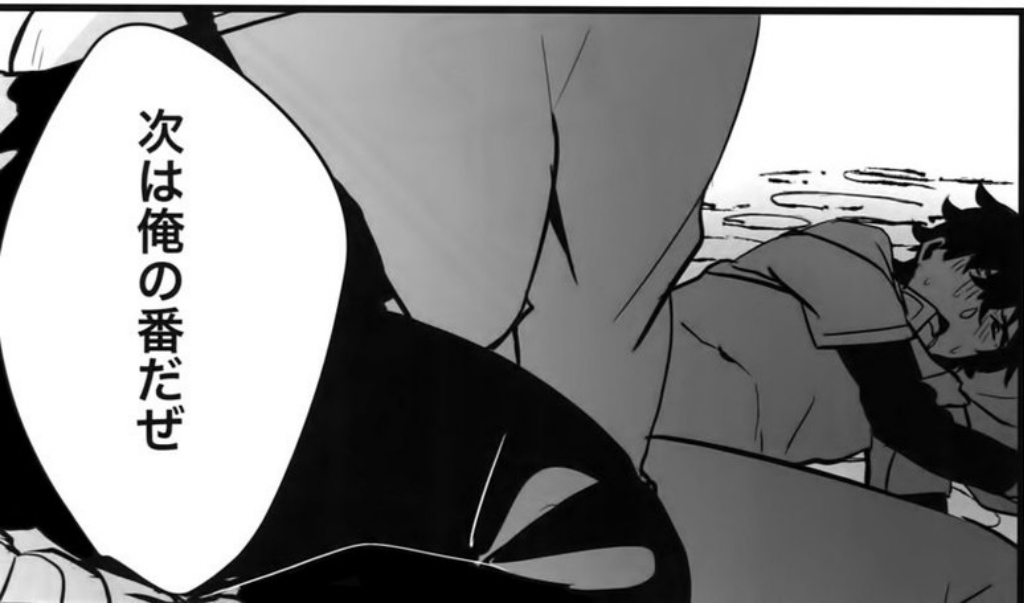
行くぞお…  
盾の勇者あ…

と…



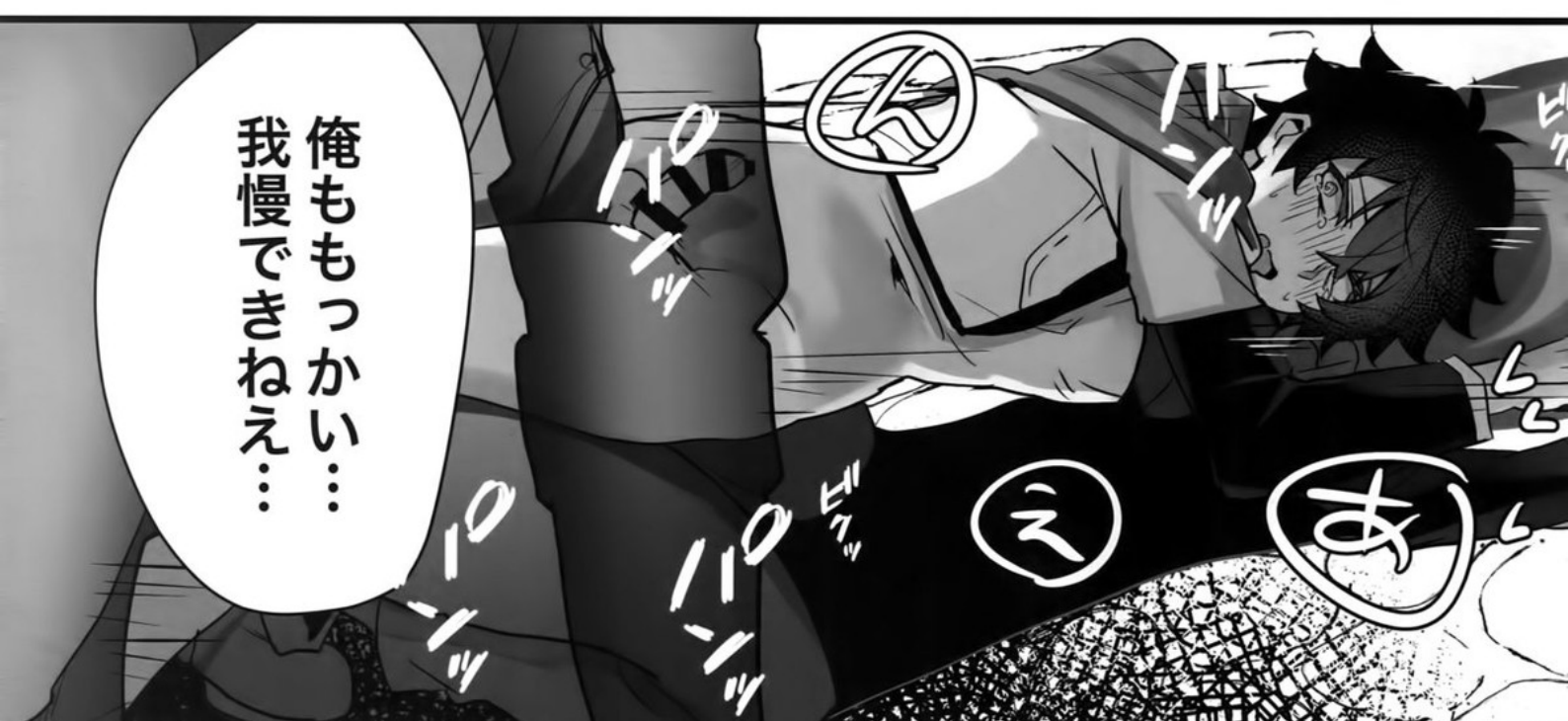
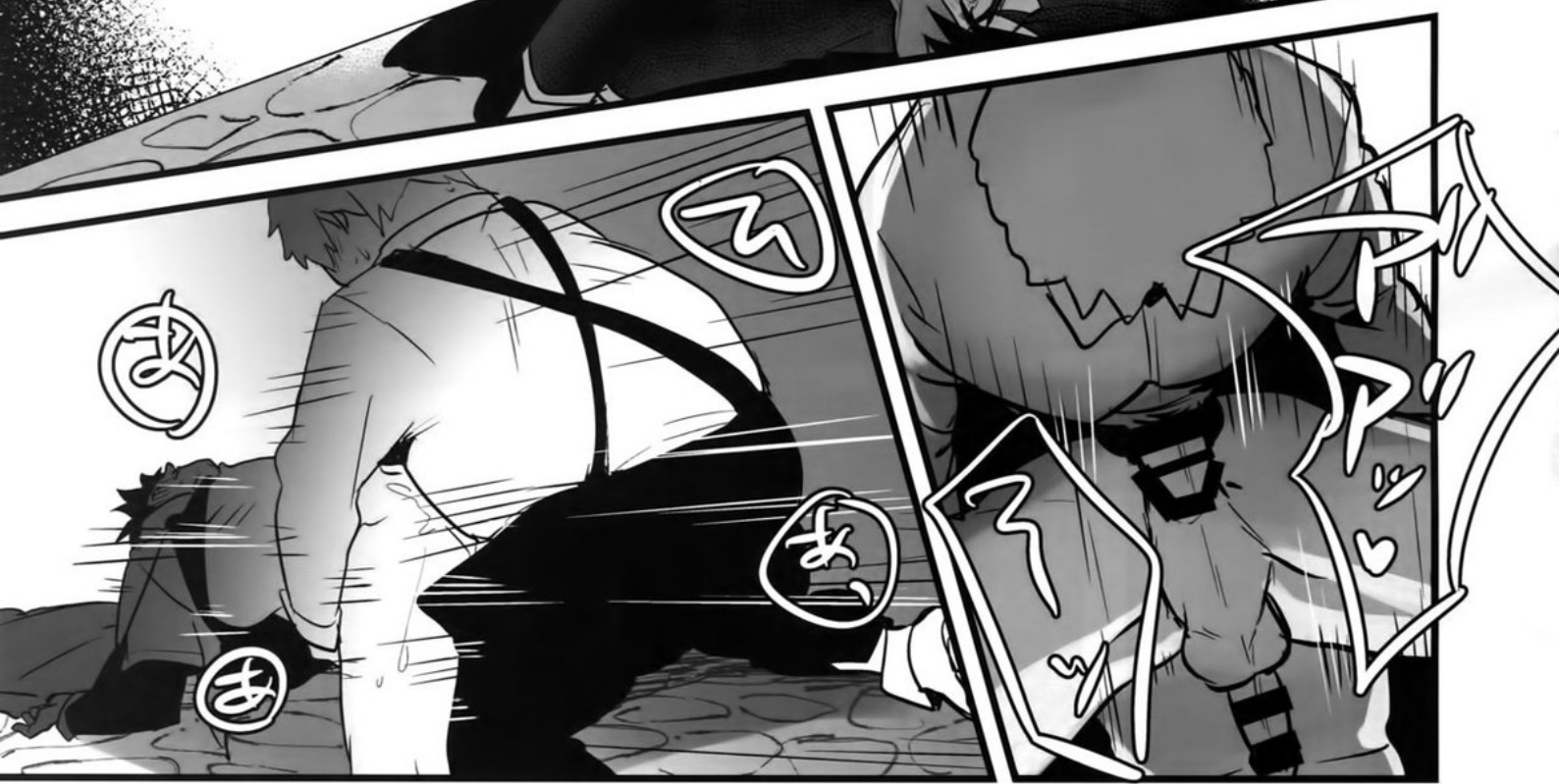






次は俺の番だぜ

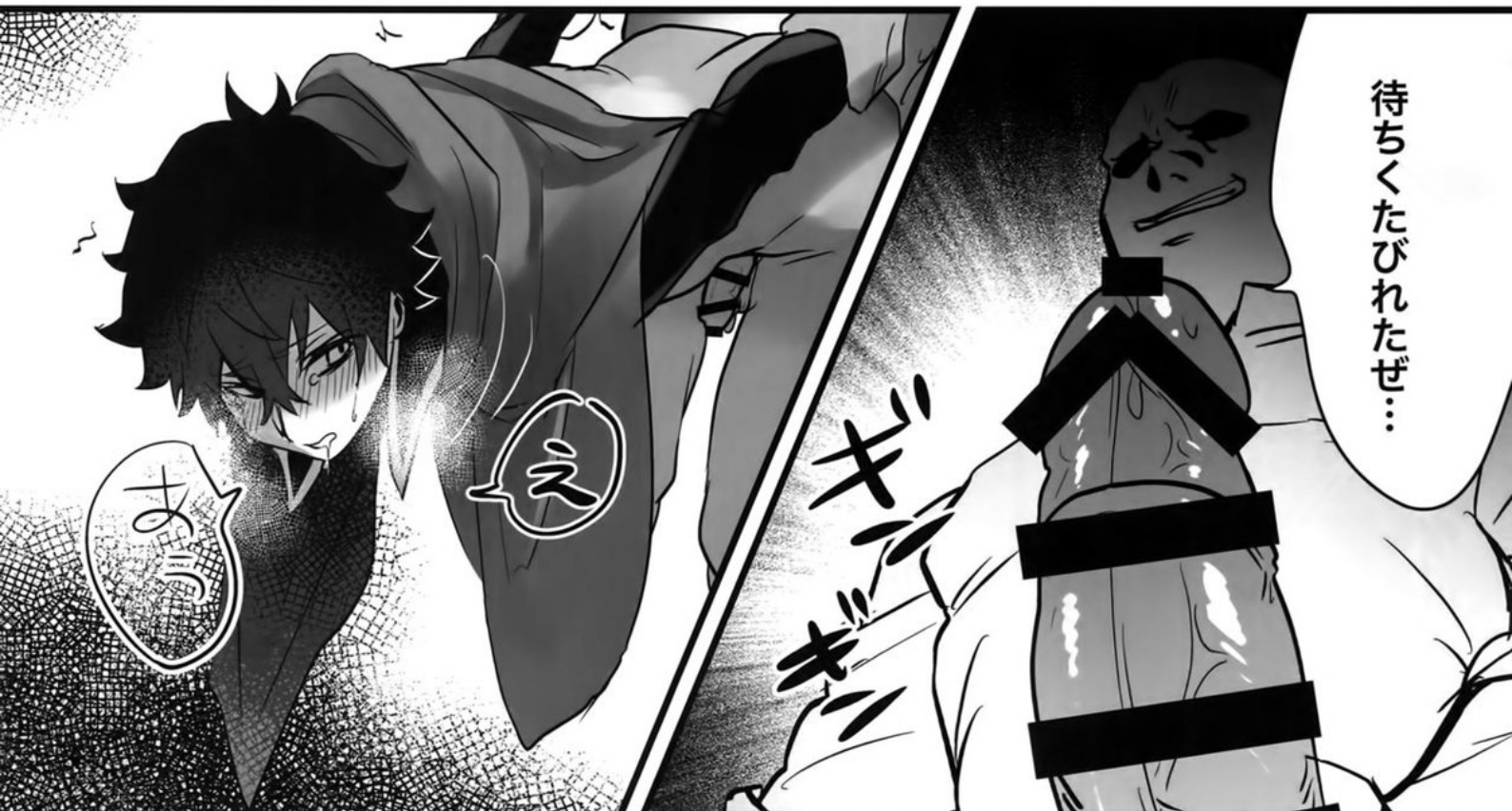
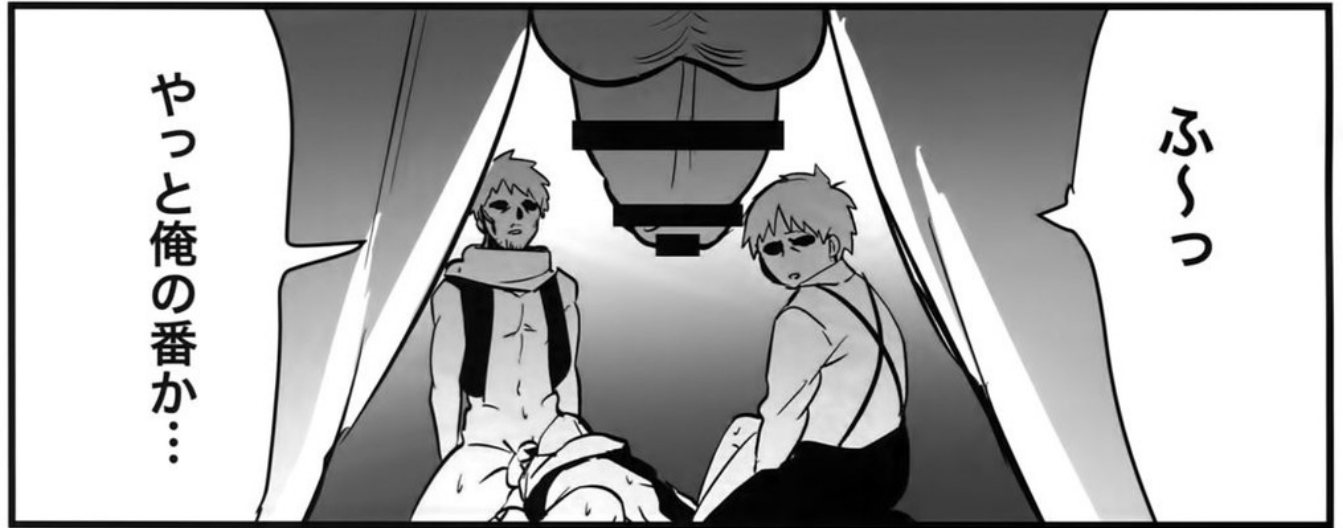




俺ももっかい…  
我慢できねえ…









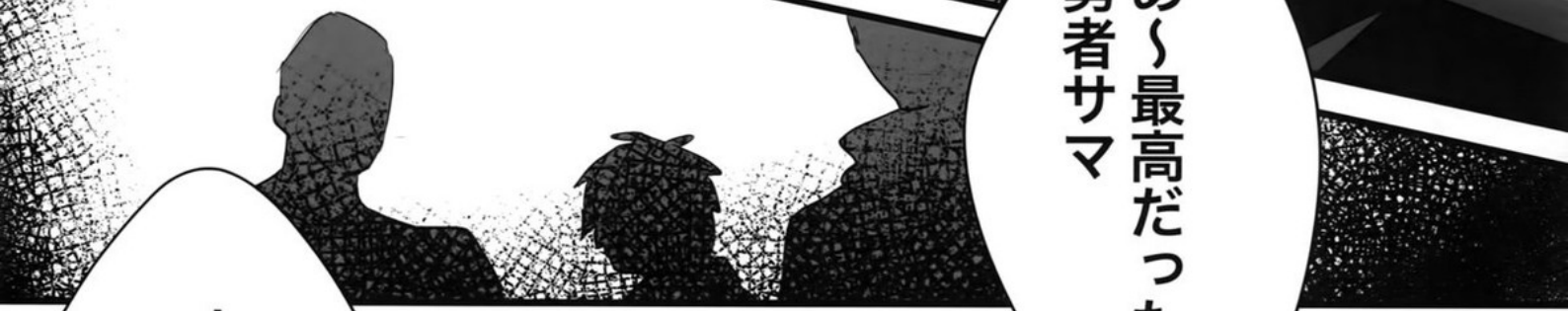








あゝ最高だったぜ  
勇者サマ



まだまだ遊び足りねえぜ

おい！  
もっとと人数集めて  
勇者輪姦パーティーだ！







自分からチンポしゃぶりに来るとは…

もう盾の勇者じゃなくて  
便器の勇者じゃね？

ハハッ！言えてるな！！

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ

おしゃぶっ  
おしゃぶっ  
おしゃぶっ

おしゃぶっ



ぐちゅ、ずぼつ——と卑猥な音が、暗く静謐な室内に響き渡る。粘着質な音をさせて揺らめかせる咬い腰を掴み、でっぷりとした肉厚の腹を揺らすと情欲に蕩けた声が跳ねた。

「ン、あ……ッ！ イ、グ……ッ！」

「くくつ……そらッ、もつと搾り取ってはどうか？」

赤く腫れた尻をばしん！ と音を立てて叩けば、剛直を振じ込んでいる直腸がぎゅうつと締まる。

「ひんッ……おごッ!? イグッ、ふんぎばいいいいいいイ!!」

喘ぎ狂いながら、背を反らせる艶めかしい身体に思わずほくそ笑む。媚薬を売ってやっていた奴等が、何やら楽しそうにしているかと思えばこういう事かと金を与えてその身を引き受けた。

快樂堕ちした、盾の勇者を——。

度数の強い蒸留酒を含んで口づけてやると、嬉しそうに吸い付いてくる。

「んむ、ちゅ……う♡ ぐく……ふあ、ンう♡」

「ほら、もつと腰を動かすんだ、もつと奥まで啜えたいだろう？」

「あ、あ……ッしたい、れす♡ おちんぼつアクメしたい♡ んふうんっ♡」

欲望の赴くままに尻を振る淫乱な盾の勇者の細い腰を押さえつけて、苛ついた陰茎で突き上げる。中の口のような箇所を突き抜けて、奥の部屋へ簡単にたどり着く。

「ほお……流石は盾の勇者だな。結腸も私の勃起ちんぽにびったりと

吸い付いてくるじゃないか」

尻たぶに指先を喰い込ませてぐりぐりと勃起した凶悪な雄を振じ込めば、かひゅ、と喉を鳴らして涙をこぼした。

「おごッ!? イグッ、ふんぎばいいいいいいイ!! んほーっ……んほー……♡ まんまんしあわせえ……れす……う」

「そうかそうか、わたしの極太ちんぽで貫かれてしあわせか」

下卑た笑いを浮かべる男が、ずちゅ、ぐちゅんっ！ と湿った音を立てて腰を打ちつける。その振動で、ふくよかな腹がたふたと揺れるのが勃起した陰茎に当たるのが気持ちいいのか腰をくねらせた。

反った薄い胸に主張した、真つ赤に腫れている尖った乳首をきゅつと抓ってやると、半狂乱になって首を振りたくった。

「んあえっ!? にやんで……ッこんな、ぎぼちばいのお……?!」

「それはねえ、君が盾の勇者だからだ」

「おりえが、盾の、ゆうしや、ッだから♡ あっ、ナカ出し……レイブに、即アクメッしちゃう……変態マゾでえ……♡」

すると口から飛び出てくる淫猥な言葉の数々に、男は腰を打ちつけて挿挿を速めると、ナカに特濃精子を大量に叩きつけた。——どぶ、どぶと注ぎ込まれる白濁の熱に、盾の勇者は足先をピンと伸ばす。

「君のような淫乱勇者には、ご褒美が過ぎたかな？」

「あがっ!? イグッ、ぐうう……!! おまんまんしあわせえ……れす♡ おちんぽありがとうごじやいましゅう♡♡♡」

蕩けた表情で、うっそりと盾の勇者は微笑んだ。



# あとかき

どうも死にかけのMSGです。  
実は個人で私初めての同人活動となります。  
こうして20p以上の漫画を  
描いたのも初めてです。  
スケジュール管理が適当すぎたために  
ギリギリの入稿  
拙い内容など非常にお見苦しい限りではありますが  
精一杯描いたため少しでもエッチだなあと感じて  
頂けると幸いです。

今回急でありながらも小説で  
ゲスト参加して下さった  
えこさんに感謝…！！エッチ…！！！！

**【ますますソウルゴリラ】MSG**  
**Twitter : @MSG68722776**  
**印刷 : 金沢印刷 2019, 08, 25 発行**

**※無断転載、ネットオークションの  
出品は固く禁じます**

